

< 研究成果の紹介 >

良質、良食味の水稻中生新品種「三重6号」の育成

農業研究部作物グループ、伊賀農業研究室

1. 成果の内容

中山間地域の水稲の主要品種である「ヤマヒカリ」は近年、胴割粒や穂発芽粒の発生により、品質の低下が著しく、その栽培面積は減少してきています。

また、「コシヒカリ」などの早生品種に作付けが偏っている平野部でも、大規模農家の作期分散を図るため、中生品種の要望が以前からありました。

そこで農業研究部では、良質、良食味の中生水稲新品種として「三重6号」を育成し、平成13年5月に品種名「みえのゆめ(仮称)」として品種登録申請しました。平成14年度から「ヤマヒカリ」に替えて、普及を図っていくことにしましたので、その特性を紹介します。

- 1) 愛知県で育成された良質・良食味品種の「祭り晴」と福井県育成の「越南148号」を交配し、育成しました。
- 2) 出穂期は「ヤマヒカリ」より1~2日程度早く、成熟期は1~2日程度遅い品種です。
- 3) 稈長は「ヤマヒカリ」より6cm程度短く、穂長は2cm程度長くなっています。また穂数は「ヤマヒカリ」と同程度です。
- 4) 倒伏しにくく、またいもち病にも強い品種です。
- 5) 「ヤマヒカリ」で問題となっている胴割粒や穂発芽粒の発生が少ない品種です。
- 6) 「ヤマヒカリ」より多収で、「ヤマヒカリ」と同程度の良食味の品種です。

2. 技術の適用効果と適用範囲

「三重6号」の普及地域としては、伊賀および北勢の中山間地域を中心とし、また平野部の大規模農家向けにも普及を図っていきます。普及予定面積は3,000haです。

この品種を導入することにより、中山間地域の水稲の品質向

上を図るとともに、「コシヒカリ」に集中している本県の水稲品種構成を適正な割合に修正し、収穫期等の作期分散が図れます。

3. 普及・利用上の問題点

- 1) 倒伏には強い品種ですが、良質、良食味米生産のために施肥は「ヤマヒカリ」と同程度で行って下さい。
- 2) 白葉枯病には弱い品種なので、常発地での栽培は避けて下さい。

(作物グループ 山川 智大)



「三重6号」の特性概要

品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	耐倒伏 性	穂発芽 性	いもち 病	白葉 枯病	収量 (kg/a)	千粒重 (g)	玄米品質	食味
三重6号	8.07	9.10	72	20.3	331	強	やや難	強	弱	61.9	23.6	上の中	上の中
(比)ヤマヒカリ	8.08	9.09	78	18.6	350	強	やや易	強	中	51.7	23.3	中の上~中の中	上の中